

## トラック輸送情報（平成23年2月分）

平成23年5月20日

国土交通省 総合政策局 情報政策本部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：中倉 内線28721

直通：03-5253-8347

ホームページ：<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

### 1. 特別積合せ貨物

#### (1) 本月の概況

調査対象26社の本月の輸送量は、5,131,328トンで、前月と比べ総輸送量が約29万トン増加したため、前月比105.9%（季節調整済み99.1%）となり、前年同月との比較では、約1.2万トン増加したため、前年同月比100.2%の実績であった。

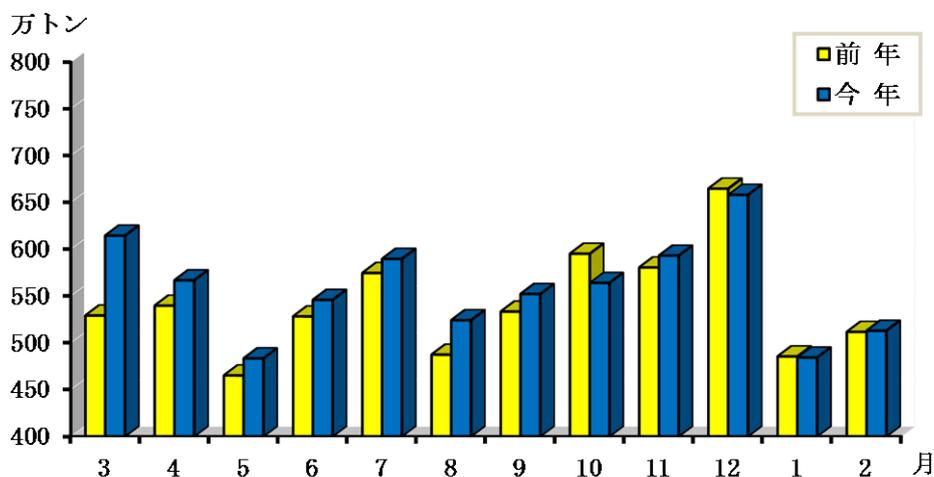
なお、平均稼働日数は22.5日で、前月と比べ0.7日増加し、前年同月と同日数であった。稼働1日当たりの輸送量は、228,059トンで、前月と比べ約6千トン増加したため、前月比102.6%となり、前年同月との比較では、約0.6千トン増加したため、前年同月比100.2%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

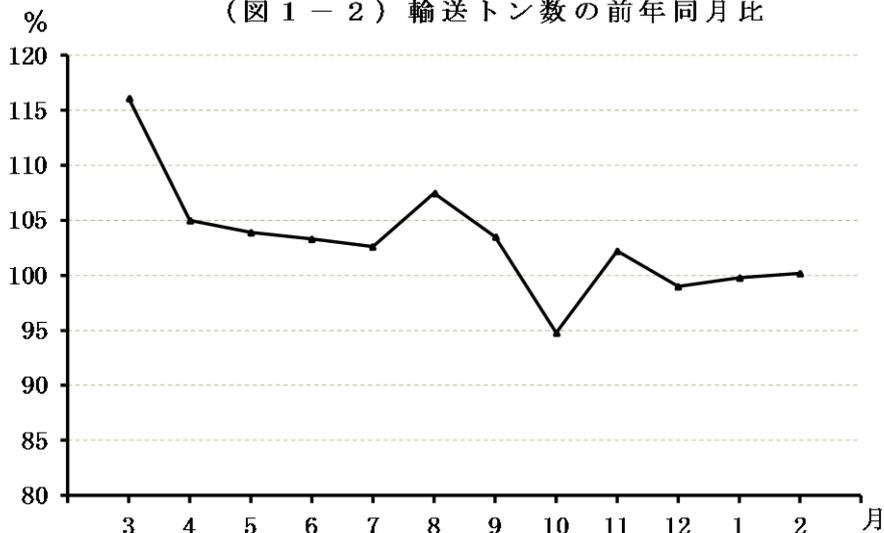
注）平成22年7月から貨物輸送の調査対象については、1社減り、26社となった。

前月比及び前年同月比は、26社ベースで比較している（図1-1及び図1-2は26社ベースで作成）。

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比



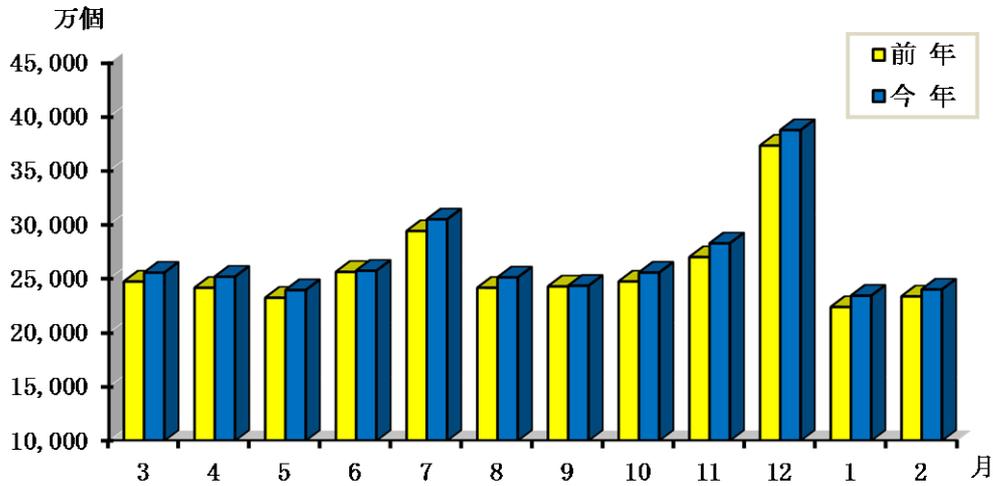
(2) 宅配便の概況

調査対象 17 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、240,249 千個で、前月と比べ 約 575 万個増加したため、前月比 102.5% (季節調整済み 98.0%) となり、前年同月との比較では、約 642 万個増加したため、前年同月比 102.7% の実績であった。

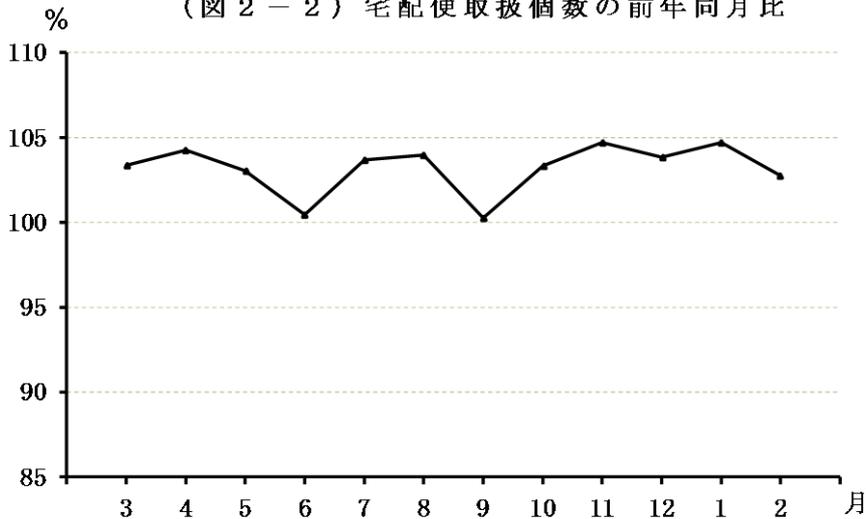
(図 2-1、図 2-2 参照)

注) 平成 22 年 7 月から宅配便輸送の調査対象については、事業承継により 1 社減り、17 社となった。

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 27 社(26 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社)の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、稼働日数の増加等により、全般的に輸送量が増加した。増加要因としては、工場・生産地からの貨物増がほぼ全ての品目に共通して見られたほか、「機械」、「化学工業品」、「繊維工業品」、「食料工業品」、「日用品」では、倉庫から出る貨物増等も要因となっている。地域的には、「日用品」が全国的に増加したほか、「機械」、「繊維工業品」、「食料工業品」が関東、北陸信越、大阪、中国等で増加している。

前年同月と比べると、工場・生産地や倉庫からの貨物増等により、「金属製品」、「化学工業品」、「繊維工業品」、「食料工業品」で、輸送量の増加が見られた。地域的には、「金属製品」、「化学工業品」、「食料工業品」等が東京、北陸信越、近畿等で増加が見られた。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 27社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因		
	著増	増	変らず	減					
前 月 に 比 べ て	農水産品	3	2	12		野菜、果物 中国	4		
	金属製品	1	3	16					
	機械	1	6	11	2	電気機械 神奈川、関東、北陸信越、大阪、近畿、中国	4, 7		
	化学工業品	1	8	12		合成樹脂、その他の化学工業品 関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方	4, 7		
	繊維工業品	1	5	14	1		神奈川、関東、北陸信越、兵庫、近畿、中国	4, 7	
	食料工業品		6	11	3	製造食品 東京、神奈川、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7		
	日用品		12	8	2	書籍・印刷物、玩具、その他の日用品 北海道、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、全国	4, 7, 8		
	その他	2	5	12	1	1	神奈川、関東	8	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		4	11	1	1			
	金属製品		4	14	2		東京、北陸信越、兵庫、近畿、中国	4	
	機械	1	3	14	2		電気機械 東京、関東、北陸信越		
	化学工業品		6	13	1		合成樹脂 関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7	
	繊維工業品		6	14	1		糸 北陸信越、中部、近畿地方、中国	4	
	食料工業品		4	14	2			東京、神奈川、北陸信越、兵庫、近畿	7
	日用品		8	9	4	1		東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫	4
	その他	2	5	9	3	2		大阪 関東	10

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都府県(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都府県を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。  
なお、地方運輸局に6大都府県を含む場合は「～地方」と表記した。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者 785 社／調査対象事業者数 1,087 社）の輸送量は、前月比 103.4%、前年同月比 104.1%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	104.1 %	110.8 %	99.8 %	104.9 %	102.2 %	101.3 %	104.9 %	101.2 %	109.2 %	97.4 %	97.3 %	
前 月 比	103.4 %	102.7 %	103.3 %	105.0 %	106.4 %	105.6 %	103.9 %	106.8 %	104.1 %	97.6 %	104.3 %	

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比102.7%、対前年同月比110.8%であった。品目別では、季節的需要増により「廃棄物」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、工場における減産の影響により、「紙・パルプ」、季節的需要減により、「鉄鋼」、「その他の農産品」の輸送量が減少したとする事業者が多かった。今後の見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比103.3%、対前年同月比99.8%であった。品目別では、建設関連の需要増等により、「砂利・砂・石材」、工場・生産地からの貨物増により、「その他の製造工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により、「木材」、「日用品」等の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比で105.0%、対前年同月比104.9%であった。品目別では、季節的需要増等により、「その他の石油製品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、不況の影響等により、「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比106.4%、対前年同月比102.2%であった。品目別では、建設関連の需要増等により、「機械」、「セメント」が、季節的需要増により、「動植物性飼・肥料」等の輸送量が増加したとする事業者が多かった。一方、輸出入の貨物減により、「金属製品」が、季節的需要減等により、「揮発油」等の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比105.6%、対前年同月比101.3%であった。品目別では、「機械」の輸送量が増加すると回答する事業者がある一方、減少すると回答した事業者もあった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降についてはほぼ横ばい傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比103.9%、対前年同月比104.9%であった。品目別では、工場からの出荷増等により、「紙・パルプ」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、デパート・スーパーからの需要減により、「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい傾向、以降については減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比106.8%、対前年同月比101.2%であった。品目別では、天候の回復により、「砂利・砂・石材」、「その他の窯業品」等が、建設関連の需要増により、「廃棄物」が、工場・生産地からの貨物増により、「その他の製造工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、「その他の製造工業品」については、季節的需要減により、輸送量が減少したと回答する事業者もあった。今後の見通しについては、次月は増加傾向、以降についてはほぼ横ばい傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比104.1%、対前年同月比109.2%であった。品目別では、輸出入の貨物増により、「金属製品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により、「野菜・果物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比97.6%、対前年同月比97.4%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増等により、「機械」が、季節的需要により、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、季節的需要減等により、「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降については減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比104.3%、対前年同月比97.3%であった。品目別では、季節的需要増により、「穀物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、輸出入貨物の減少により、「木材」の輸送量が減少したと回答する事業者もあった。今後の輸送の見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局										
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増		2					1			1	4
	減	1	3									4
2. 野菜・果物	増								1	3		4
	減	2	1		1				2	2	1	9
3. その他の農産品	増											
	減	2							1	1		4
4. 畜産品	増								1			1
	減	2	1							1		4
5. 水産品	増	1			1							2
	減	1	1			1				1		4
6. 木材	増	3			1					2		6
	減	2	2		2					2	1	9
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増											
	減	1										1
9. 金属鉱物	増									1		1
	減											
10. 砂利・砂・石材	増	8	2					4		3		17
	減	9						2		2		13
11. 工業用非金属鉱物	増	2	1							2		5
	減	1				1			1	1		4
12. 鉄鋼	増		1	1			1	3		2	1	9
	減	3	1					2	1			7
13. 非鉄金属	増				1							1
	減						1					1
14. 金属製品	増	1	1	1	1		2	2	1			9
	減		1		3		1	1		2		8
15. 機械	増		1		3	2	2	3		4		15
	減		1	1		3	1			2		8
16. セメント	増	4	1		3	1	1			4		14
	減	2	2							2	1	7
17. その他の窯業品	増				1	1		3		1		6
	減						1			1		2

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18. 揮 発 油	増			1								1
	減		1		2				1			4
19. その他の石油製品	増	2	1	3				1				7
	減	1	1					1	1			4
20. コークス・ その他の石炭製品	増											
	減				1							1
21. 化 学 薬 品	増						1					1
	減	1										1
22. 化 学 肥 料	増	1			1			1				3
	減											
23. その他の化学工業品	増	1			2			2			1	6
	減				1			1				2
24. 紙 ・ パ ル プ	増						2		1	1		4
	減	3	1	1		1			1			7
25. 織 維 工 業 品	増				1							1
	減					1		1	1			3
26. 食 料 工 業 品	増		4	1	2			1	1	2		11
	減		3		1		2	1	1	4		12
27. 日 用 品	増	1		1	1		1	2	1	3		10
	減	1	2	1			1	1				6
28. その他の製造工業品	増		2				2	4	1	2		11
	減						1	3		1		5
29. 金 属 く ず	増										1	1
	減											
30. その他のくずもの	増											
	減											
31. 動植物性飼・肥料	増	2	1	1	2					1		7
	減	3	2	1						1		7
32. 廃 棄 物	増	6	1					3		2		12
	減	3								1		4
33. 輸 送 用 容 器	増								1	1		2
	減									1		1
34. 取 り 合 せ 品	増			1						1	1	3
	減		1			1		1			1	4
35. そ の 他	増	3	1	2	1		3	1	1			12
	減	1		1			1	2				5